

**JSCA**  
**指導者検定会**  
**インストラクター/ガイド**  
**検定課目ガイドライン**  
-- 2018 年度版 --

一般社団法人  
日本セーフティカヌーイング協会  
Japan Safe Canoeing Association

指導者検定会・課目ガイドライン

このガイドラインは日本セーフティカヌーイング協会・正会員規程及び検定会規定に基づき、指導者育成を目的にこれを定める。以下の内容を変更する場合は、教育普及委員会の承認を得、理事会に報告しなければならない。このガイドラインは会員がいつでも入手可能なものである。

■受験資格	1
■受験料	1
■ベーシック課程：レジャーカヤック	2
■教養課程：カヤック、オープンカヌー	5
■基礎課程：カヤック、オープンカヌー	6
■応用課程：リバーカヤック、リバーカヌー	12
■応用課程：シーカヤック	14
■評価の主観的目安	16

【資格一覧と必要単位数】

認定資格名	種目	ベーシック課程		基礎課程			応用課程			合計単位数
		知識	技術	教養	基礎1/技術	基礎2/指導	RK 課目	RC 課目	SK 課目	
		共通	各艇種	共通	K課目	C課目	共通			
JSCA インストラクター /ガイドベーシック	カヤック	3	3							6
	SUP	3	3							6
	カヌー	3	3							6
JSCA インストラクター /ガイド1	カヤック			6	3		3			12
	カヌー			6		3	3			12
JSCA インストラクター /ガイド2	リバーカヤック			6	3		3	9		21
	リバーカヌー			6		3	3		9	21
	シーカヤック			6	3		3		9	21

JSCA 指導者検定会・インストラクター/ガイド

検定課目ガイドライン

-- 2018年度版 --

2016年4月1日発行

2017年2月22日改正

2018年1月16日改正

発行：日本セーフティカヌーイング協会

編集：JSCA 教育普及委員会

■受験資格

1. 全課程共通

- 1) 受験する年の4月1日現在、18歳以上の者：「<検定会規程> 3. 受験申請(1)」による
- 2) 下記の指定講習修了者(講習修了書のコピーを提出)

【心肺蘇生法講習】下記いずれかの講習：受験日より遡り3年以内の講習修了

- ◆JSCA-CPR講習
- ◆消防局：普通救命講習
- ◆日本赤十字社：救急法・基礎講習
- ◆MFA ジャパン：成人救命救急法コース (MFA ベーシックプラス)
- ◆他、匹敵する講習、資格(要問合せ)

2. 教養課程、基礎課程

- 1) 下記の指定講習修了者(講習修了書のコピーを提出)

【カヌー安全講習】

- ◆JSCA セーフティ&レスキュープログラム(SRP)

3. 応用過程

下記条件をいずれも満たす者

- 1) 教養課程受験経験(可否は問わない)
- 2) 基礎課程受験経験(可否は問わない)

■受験に関わる費用

1. 受験料：受験前に納付を済ませる事

検定内容	単価	数量	課程合計金額
ベーシック課程	30000円/2日間	6単位	30000円/課程
教養課程	4000円/課目	6課目	24000円/課程
基礎課程	24000円/2日間	6単位	24000円/課程
応用課程	36000円/3日間	9単位	36000円/課程

※ベーシック課程・技術課目のみ受験(知識課目免除)者は15000円/1日間

※基礎過程：漕艇技術課目のみ受験(異種目受験：指導技術課目免除)者は15000円/1日間

2. テキスト代：各課程必須のテキスト最新版を購入する事

テキスト	単価	テキストが必須となる課程
JSCA・SRP テキストブック	6000円	ベーシック課程
JSCA・指導者検定会テキストブック	6000円	ベーシック課程、教養課程、基礎課程

※但し、ベーシック課程において2冊同時に購入する場合の販売価格はそれぞれ半額とする

3. 事前講習会：受講義務は無いが協会推奨

各課程の事前講習会	15000円/日	主催は公認スクール、講習担当は各課程の検定員資格者とし、講習内容は主催者及び担当者に一任する
-----------	----------	--

※但し、レンタル関連料金は含まない

■ベーシック課程(6単位):カヤック、オープンカヌー、SUP

安全な指導をするに当たり、静水フィールドにおける必要かつ最低限の知識と技術を身につけているかを評価する課程。

1. 課目と内容

課目		課題	
知識	1) 総論	JSCA 活動について (定款、規程集、ガイドライン) リスクマネジメント概要 パドルスポーツ活動概要	※知識課目、受験免除条件については下記参照
	2) 安全	パドルスポーツ活動における安全管理 パドルスポーツ活動特有の傷病と応急処置 ※心肺蘇生法講習修了者を対象とした内容	
	3) パドルスポーツの基礎知識	用具の基礎知識 フィールドの特性と潜む危険要素 技術分析と方法論	
技術	4) 漕艇技術	静水における基本的な艇操作 ※「漕艇技術・課目詳細内容」を参照	
	5) 指導技術	受験者同士による模擬講習形式での実習 ※「指導技術(模擬講習)・課題詳細内容」を参照	
	6) 安全技術	JSCA・SRP に準じた研修 ※教養の「安全」、「パドルスポーツの基礎知識講習」と併せて「SRP 講習修了」同程度の内容	

※以下の条件のいずれかを満たす者は知識課目が免除できる

- 1、JSCA 公認スクールに一般会員として所属している
- 2、ベーシック課程異種目受験合格、もしくはインストラクター1 受験合格時から2年後の期末までの受験

判定の目安

★知識課目 1)~3): 90 分程度の講義受講後、30 分程度のペーパーテスト実施  
・基本的な知識を身につけているか

★技術課目

- 4) 漕艇技術: 「漕艇技術・課目詳細内容」を参照
- 5) 指導技術: 「指導技術(模擬講習)・課題詳細内容」を参照
- 6) 安全技術:
  - ・研修終了とする
  - ・「安全技術・課題詳細内容」を参照

2. 評価と認定

担当検定員が各課目毎に 100 点満点で採点する。

「知識」課目は、全て 75 点以上の時に 5 段階評価で「A」以上とする。

「技術」課目は、各課目の採点結果を元に 5 段階評価をする。

「知識」「技術」ともに「A」以上の時、ベーシック課程・6 単位を認定する。

尚、認定可否に関わらず、ベーシック課程を修了したものは、「JSCA・SRP 講習」修了者として認定される。

▼漕艇技術・課目詳細内容

1-1) カヤック種目:【K】

●使用艇について

課目	課題
コンビネーション	目標地点に向かって、前進、停止、出発地点の方向へ後進する・50m程度の距離で1回実施(後進の距離は短めとする)・課題を達成するための技法(スキル)は問わない
スピン	停止状態から、フォワードとリバーススウィープを使って、スムーズな定置回転をする(左右各2回転)

- ・ラダー、スケグ等の補助具の使用は認めない
- ・ハードハルタイプ(リジット)のカヤックとする
- ・オープンデッキ、クローズドデッキのタイプは問わない
- ・水密隔壁がないクローズドデッキのカヤックには浮力体を装着する

1-2) オープンカヌー種目:タンデムツーリングカヌー【TTOC】

課目	課題
コンビネーション	目標地点に向かって、前進、停止、スピン(180度回転)し、出発地点の方向へ再度前進、停止、スピン(逆180度回転)する・50m程度の距離で1回実施・課題を達成するための技法(スキル)は問わない
サイドスリップ	停止状態から、左右各方向へスリップする・各方向へ5m程度の移動を1回実施・課題を達成するための技法(スキル)は問わない

●使用艇について

- ・ハードハル(リジットタイプ)タイプのオープンデッキカヌー(タンデムツーリングカヌー)を使用する。アウトリガー、ラダー、スケグ等の補助具の使用は認めない

1-3) SUP 種目:【SUP】

課目	課題
前進	目標地点への前進を往復。ターンは問わない。30m程度の距離で1回実施
スピン	ボードセンターでパラレルスタンスの状態フォワードとリバースのスウィープストロークを使ってスムーズな定置回転をする(360°左右各1回転)
	停止状態からサーフスタンスにて定置回転をする(360°どちらか1回転)

●使用艇について

- ・特に材質は問わないが、リーシュを装着できるタイプとする
- ・インフレータブルのタイプは十分な空気圧を得られるものとする

●判定の目安:カヤック、オープンカヌー、SUP 種目共通

- ・課題を達成しているか
- ・各々の技術の目的と効果を理解しているか
- ・一般的に、無理なく効率の良い身体運動をしているか
- ・確実な水のキャッチ、正確なストローク、効率の良いフィニッシュがなされているか
- ・全体の安定感(コントロール、バランス、スムーズさ)が保たれているか
- ・前進に関してはスピード感があるか
- ・【SUP】サーフスタンスでのスピンは重心位置を的確に移動しているか

▼指導技術(模擬講習)・課題詳細内容:全種目共通

- 判定の目安:共通項目・基本的な内容を理解しているか・安全に行っているか・どのように伝えられているか

課題	実施方法
PFＤ装着	受験者同士による模擬講習実習(ワークショップ形式)・左記3
乗艇下艇	
陸上パドリング	

※SUPでは『PFＤ装着』にリーシュ装着、『陸上パドリング』には持ち替え方も含める

▼安全技術・課題詳細内容:全種目共通

●検定種目(艇種)の特性に関して

- ・艇の特性の理解
- ・艇の特徴とフィールドからの影響

●レスキュー

- ・アシストレスキュー:落水者を再乗艇させるレスキュー技術
- ・セルフレスキュー:再乗艇
- ・牽引

●活動フィールドの考察

- ・活動フィールドのリスクの洗い出し
- ・活動フィールドのリスクへの対策

■教養課程（全6単位）：全種目共通

安全な指導をするに当たり、それに関わる必要とされる指導者としての知識を最低限身につけているかを評価する課程。

課目	内容
総論	JSCA 活動について ・目的とそのシステム(定款、規程集、ガイドライン) ・資格認定制度 ・公認スクール ・協会共通プログラム リスクマネジメント概要 カヌーの基礎知識：起源と歴史、専門用語の扱い
カヌーギア	カヌー用具の基礎知識 ・各道具の名称と特性 ・適切な用具の選択
フィールド	フィールドの特性と潜む危険要素 ・水の特性 ・フィールドの種類と危険要素 ・フィールド情報：地図、気象等
技術論	技術分析と方法論 ・カヌー技術の特徴 ・技術分析の考察
救急法	カヌー活動特有の応急手当 ・可能性のある負傷・症例と 対策、事例 救命処置(CPR&AED)方法の確認と対策 ※心肺蘇生法講習修了者を対象とした内容
セーフティ	カヌー活動における安全管理 ・カヌー活動に潜むリスクの認識 ・プランニングと実践における判断 ・レスキューの概念と方法例 ・事件事例について

1. 課目と内容：各課目1単位：合計6単位

2. 講義

講義内容は基本的知識を身につけていることを前提に、カヌーシーン特有な事柄について進められる。従って、事前に一般的な知識を身に付けていることが望ましい。

3. 評価と単位認定

90分程度の講義の受講とペーパーテスト(制限時間30分程度)を実施し、担当検定員が課目毎に100点満点で採点し、75点以上で該当課目の単位を認定する。

■基礎課程（6単位）：カヤック、オープンカヌー

安全な指導をするに当たり、静水フィールドにおいて基本的な技術を理解し実践しているか、基礎的な指導技量やそれに伴う知識を身に付けているかを評価する課程。

課目		課題	
漕艇技術	1-1)カヤック	静水において基本的な艇操作を理解し実践しているか 「漕艇技術・課目詳細内容 1-1)カヤック種目」を参照	
	1-2)オープンカヌー	静水において基本的な艇操作を理解し実践しているか 「漕艇技術・課目詳細内容 1-2)オープンカヌー種目」を参照	
指導技術	2)指導論	インストラクターの役割と指導方法論 ・インストラクターと参加者 ・コミュニケーション ・技術指導の基本的流れ	※インストラクター1 或いはインストラクター2が異種目受験の場合は受験免除
	3)模擬講習	ワークショップ形式での模擬講習実習 ・動画教材を利用 ・対象は初級者、静水でのパドリング 技量の絶対評価の実習 ・パドリングテスト ・技量の採点方法	

1. 課目と内容

●判定の目安

★漕艇技術：静水フィールドでの艇操作技術の評価

1-1)カヤック：「漕艇技術・課目詳細内容 1-1)カヤック種目」を参照

1-2)オープンカヌー：「漕艇技術・課目詳細内容 1-2)オープンカヌー種目」を参照

★指導技術

2)指導論：90分程度の講義受講後、30分程度のペーパーテスト実施

- ・指導法に関してどれほど考察しているか

3)模擬講習

- ・技術をどのように観察し、分析し、評価したのか
- ・改善するためにどのように（適切に、分かりやすく）アドバイスしたのか
- ・どのようなコミュニケーションがなされたか

2. 評価と単位認定

ペーパーテストは担当検定員が、それ以外は2名以上の検定員が、各課目毎に100点満点で採点し、それを元に「漕艇技術」「指導技術」の各評価が、5段階評価で全てA以上の時、基礎課程・6単位を認定する。



▼漕艇技術・課目詳細内容

1-1)カヤック種目：リバーカヤック【RK】、シーカヤック【SK】

課目	課題	要求される主たるスキル	
基礎技術	1) フォワード	目標地点に向かって直線的に前進する ・25～50m程度の距離を1回実施	フォワード
	2) バックワード	目標地点に向かって直線的に後進する ・25～50m程度の距離を1回実施	リバース、リバース・スウィープ
	3) サイドスリップ	左右各横方向にスリップする ・ドローとスカーリングで各左右5m程度移動	ドロー スカーリング
	4) スピン	停止状態から、スムーズな定置回転をする ・RKは左右各2回転、SKは左右各1回転実施 ・RKはフラット、SKは適切なリーニングを行う	スウィープ&スターン ドロー+リバース・スウィープ
コンビネーション	5-1) 8の字漕航【RK】	右回りの旋回円と左回りの旋回円とを連続的に描く(8の字を描く)ように前進する ・半径10～15m程度の旋回円を描き、8の字を2周実施	内傾+適切なストローク
	5-2) S字漕航【SK】	目標地点に向かって左右交互に円弧を描きながら前進する ・直線で100m程度の距離を1回実施 ・円弧は左右各2回行う	外傾+適切なストローク
	6) ターン	直進から、効果的な内傾を伴ってターンをする ・左右のターンを、RKは2回、SKは1回実施 ・RKは180度程度、SKは90度程度回し込む	【RK】 バウドロー(バウラダー、デュフェック) 【SK】 ローブレイスターン
リカバリー	7) ブレイス	艇を傾けてバランスを崩した状態から、パドリングできる元の状態に復元する ・ローブレイスは45度程度以上、ハイブレイスは80度程度以上、艇を傾け、左右各2回実施	ローブレイス ハイブレイス
	8) ロングロール	完沈状態からパドリングできる元の状態に復元する ・左右いずれか片方を1回実施 ・パドルを持ち換えた状態で沈してもかまわない ・フル(360度)、ハーフ(180度)は問わない	ロングロール(技法は問わない)
	9) ショートロール	完沈状態からパドリングできる元の状態に復元する ・左右いずれか片方を、フルロールで連続2回実施	ショートロール(技法は問わない)
	10) レスキュー	漂流者及び自身の安全確保を図りながら、沈した状態の他艇を排水し、漂流者を再乗艇させる ・漂流者の足がつかない深さで、1回実施	【RK】TXレスキュー 【SK】Tレスキュー



●判定の目安

★殆どの課目に共通する基本項目

- ・課題を達成しているか
  - ・各々の技術の目的と効果を理解しているか
  - ・一般的に、無理なく効率の良い身体運動をしているか
  - ・確実な水のキャッチ、正確なストローク、効率の良いフィニッシュがなされているか
  - ・全体の安定感（コントロール、バランス、スムーズさ）が保たれているか

1) フォワード

- ・ローテーション運動しているか
- ・方向安定性が保たれているか
- ・スピードがあり、リズムカルか

2) バックワード

- ・ローテーション運動しているか
- ・方向安定性が保たれているか
- ・スピードがあり、リズムカルか

3) サイドスリップ

- ・スムーズに横方向へ移動したか
- ・方向安定性が保たれているか
- ・パドルシャフトがしっかり立ち、十分な量の水をとらえているか

4) スピン

- ・艇の回転が止まらずスムーズに回転しているか
- ・ローテーション運動を含めて、各ストロークが有効に機能しているか
- ・【RK】艇をフラットに保ち、その場に留まっているか
- ・【SK】回転に効果的なリーニングをしているか

5-1) 8の字漕航、5-2) S字漕航

- ・一定のスピードを保ちつつ、定常的な旋回円（円弧）が描けているか
- ・効果的なリーニングとストロークとの調和が保たれ、有効に機能しているか
- ・切り返しがスムーズに行われているか

6) ターン

- ・適切な先行動作がなされているか
- ・効果的な内傾とストロークとの調和が保たれ、有効に機能しているか
- ・【RK】ターン終了後、艇が失速していないか
- ・【SK】効果的なターンきっかけ動作がなされているか

7) ブレイス

- ・艇の傾け角度は十分か
- ・効果的なヒップスナップが使われ、スムーズに素早く復元されているか
- ・身体（特に肩）に無理のないスキルを使っているか

8) ロングロール

- ・完沈状態になったか
- ・効果的なヒップスナップが使われ、スムーズに素早く復元されているか
- ・身体（特に肩）に無理のないスキルを使っているか

9) ショートロール

- ・完沈状態になったか
- ・効果的なヒップスナップが使われ、スムーズに素早く復元されているか
- ・身体（特に肩）に無理のないスキルを使っているか

10) レスキュー

- ・漂流者と自身の安全確保、漂流者に対して適切なアドバイスとコミュニケーションをしているか
- ・バウから持ち上げ、スムーズな排水をしているか
- ・安定した状態で、スムーズに漂流者を再乗艇させているか

●使用艇について

- ・ハードハル（リジッド）タイプのクローズド・デッキ・ソロ・カヤックを使用する
- ・スプレーカバーが装着でき、膝のホールドがしっかりした（ロールが可能な）艇
- ・隔壁又は充満したフローテーションバッグを装着する
- ・ラダー、スケグ等の補助具の使用は認めない

▼漕艇技術・課目詳細内容

1-2) オープンカヌー種目：タンデムツーリングカヌー【TTOC】、ホワイトウォーター・オープンカヌー【WWOC】

課目	課題	要求される主たるスキル	
基礎技術	1) フォワード	目標地点に向かって直線的に前進する ・25～50m程度の距離を1回実施	フォワード+スターンラダー、スターンプライ、Jストローク
	2) バックワード	目標地点に向かって直線的に後進する ・25～50m程度の距離を1回実施 ・方向修正の方法は問わない	リバース、リバース・スウィープ、コンパウンド+方向修正
	3) サイドスリップ	オンサイド方向、オフサイド方向にスリップする ・いずれかのスキルで、各方向5m程度移動	【オンサイド方向】 ドロー、スカーリング 【オフサイド方向】 クロスドロー、クロススカーリング、サイドプライ、プッシュスカーリング
	4) スピン	停止状態から、その場で素早く回転する ・オンサイド方向、オフサイド方向各2回転程度	【オンサイド方向】 リバース・スウィープ+バウドロー、BOXストローク 【オフサイド方向】 スウィープ+クロスバウドロー
コンビ	5) 8の字漕航	右回りの旋回円と左回りの旋回円とを連続的に描く(8の字を描く)ように前進する ・半径10～15m程度の旋回円を描き、8の字を2周実施	【オンサイド方向の旋回】 Cストローク、Jストローク+リーニング 【オフサイド方向の旋回】 クロスストローク+リーニング ※切り返しのスキルは問わない
リカバ	6-1) リエントリー 【TTOC】	足の着かない水深において、ドライ状態の艇に自力再乗艇する	自力再乗艇
	6-2) ロール 【WWOC】	完沈状態からパドリングできる元の状態に復元する	ロールの技法は問わない
タンデム技術	7) スピン・パウ	スターンマンと協力して停止状態からその場で素早く回転する ・左右各2回転程度	バウドロー、クロスバウドロー
	8) スピン・スターン	バウマンと協力して停止状態からその場で素早く回転する ・左右各2回転程度	スターンプライ、スターンドロー

	9) ターン・バウ	スターンマンと協力して直進から極力失速させずにターンをする ・連続的に左右ターン2回実施	バウドロー、クロスバウドロー
	10) ターン・スターン	バウマンと協力して直進から極力失速させずにターンをする ・連続的に左右ターン2回実施	スターンプライ、スターンドロー
	11) レスキュー	漂流者及び自身の安全確保を図りながら、沈した状態の他艇を排水し、漂流者を再乗艇させる ・漂流者の足がつかない深さで、1回実施	TX レスキュー

※6-1) リエントリー、6-2) ロールは、使用艇によりどちらかが課題となる

●判定の目安

★殆どの課目に共通する基本項目

- 課題を達成しているか
  - 各々の技術の目的と効果を理解しているか
  - 一般的に、無理なく効率の良い身体運動をしているか
  - 確実な水のキャッチ、正確なストローク、効率の良いフィニッシュがなされているか
  - 全体の安定感（コントロール、バランス、スムーズさ）が保たれているか
- 1) フォワード
    - ローテーション運動しているか
    - 方向安定性が保たれているか
    - スピードがあり、リズムカルか
  - 2) バックワード
    - ローテーション運動しているか
    - 方向安定性が保たれているか
    - スピードがあり、リズムカルか
  - 3) サイドスリップ
    - スムーズに横方向へ移動したか
    - 方向安定性が保たれているか
    - パドルシャフトがしっかり立ち、十分な量の水をとらえているか
  - 4) スピン
    - 艇の回転が止まらずスムーズに回転しているか
    - 各ストロークが有効に機能しているか
    - 【タンデム・ツーリングカヌー】回転に効果的なリーニングをしているか
    - 【WWソロ・オープンカヌー】艇をフラットに保ち、その場に留まっているか
  - 5) 8の字漕航
    - 一定のスピードを保ちつつ、定常的な旋回円が描けているか
    - 効果的なリーニングとストロークとの調和が保たれ、有効に機能しているか
    - 切り返しがスムーズに行われているか
  - 6-1) リエントリー
    - 速やかに、スムーズに再乗艇したか
    - 再乗艇後ガンネルが水面上にあり、排水作業が出来る状態であるか
  - 6-2) ロール
    - 完沈状態になったか
    - 効果的なヒップスナップが使われ、スムーズに素早く復元されているか
    - 身体（特に肩）に無理のないスキルを使っているか
  - 7) スピン・バウマン
    - 艇の回転が止まらずスムーズに回転しているか
    - 各ストロークが有効に機能しているか
    - スターマンとの調和が図れているか
  - 8) スピン・スターマン
    - 艇の回転が止まらずスムーズに回転しているか
    - 各ストロークが有効に機能しているか
    - バウマンの意志に連動したパドルワークをしているか
  - 9) ターン・バウマン
    - 安定したスムーズなターンをしているか
    - 有効なバウ方向修正が出来ているか
    - スターマンとの調和が図れているか
  - 10) ターン・スターマン
    - 安定したスムーズなターンをしているか
    - 艇の動きを有効にコントロールしているか
    - バウマンの意志に連動したパドルワークをしているか
  - 11) レスキュー
    - 漂流者と自身の安全確保、漂流者に対して適切なアドバイスとコミュニケーションをしているか
    - バウから持ち上げ、スムーズな排水をしているか
    - 安定した状態で、スムーズに漂流者を再乗艇させているか
- 使用艇について
- ハードハル（リジッド）タイプのオープンデッキ・カヌーを使用する
  - ソロパドリングの課目では、ソロタイプ、タンデムタイプどちらを使用してもかまわない
  - タンデムパドリングの課目は、タンデムタイプを使用する

■応用課程（9単位）：リバーカヤック、リバーカヌー

安全な指導をするに当たり、指導するフィールドに適した技術や知識を身につけ実践しているか、初心者指導においての最低限の指導技量や知識があるか、そして全てに渡りセーフティ・ジャッジメントがなされているかを評価する課程。

1. 課目と内容

課目		課題
漕艇技術	1) エディライン通過	指定された地点からエディラインを通過し、指定された地点へ移動する ・フェリーグライド、ピールアウト、エディターン各々、左右各1回実施
	2) 漕ぎ上がり	指定された地点から、上流に指定された地点まで漕ぎ上がっていく ・設定された時間内で1回実施 ・前漕は行わない
	3) コンビネーション	指定された地点から、指定地点を通過し、目標地点へ移動する ・設定された時間内のインスペクション後、1回実施 ・流水における総合パドリング力を判定する
	4) ロール	本流上で、完沈状態から、パドリング可能な状態へ艇を復元させる ・左右いずれか1回実施 ・スタイル、フル又はハーフは問わない
安全技術	5) 流水フィールド	流水フィールドの基礎知識 ・川の特徴とそこに潜むリスクの予知、判断、対処 ・事件事例
	6) ツーリング	ツーリング計画と実習 ・情報収集とプランニング ・模擬ツアー ・スカウティングとルートジャッジメント
	7) レスキュー	流水を想定したレスキュー方法の確認と実践 ・ロープレスキュー ・トウーレスキュー
指導技術	8) 模擬講習	受験者同士による模擬講習形式での実習 ・対象は初心者と仮定する ・陸上講習 ・静水講習

●判定の目安

★漕艇技術：実践するフィールドでの艇操作技術の評価

殆どの課目に共通する基本項目

- 課題を達成しているか
- 積極的に流れを読み、利用し、その状況に適したスキルを使っているか
- 自分の意志でコントロールしているか
- 全体を通して安定感があり、リズムカルで適切なスピードを保っているか
- 全体に無理なく、スムーズな動きをしているか

1) エディライン通過

- エディラインを確実に突破することができたか
- エディライン通過時、流速と目標地点に対して、3要素（スピード、角度、リーニング）をバランス良く保持できたか
- 指定された地点へ移動できたか

2) 漕ぎ上がり

- 流れを読んでコース取りをしているか
- コース取りに適応したスキルを繰り出しているか
- 必要に応じて、効果的な力強いストロークが出来ているか

3) コンビネーション

- 流れを読んでコース取りをしているか
- コース取りに適応したスキルを繰り出しているか
- 指定ムーブはどの程度出来たか

4) ロール

- 安定的に確実なロールが出来ているか
- 効果的なヒップスナップが使われ、スムーズに素早く復元されているか
- 身体（特に肩）に無理のないスキルを使っているか

★安全技術：実践するフィールドでの安全に関わる知識と技術、判断力を評価

5) 流水フィールド：90分程度の講義受講後、30分程度のペーパーテスト実施

- 必要な知識を身につけているか

6) ツーリング

- 無理のない、安全が配慮された計画が立てられているか
- 現場での状況判断が的確になされたか
- スカウティング方法やルートジャッジメントは適切か
- 適切な誘導がなされているか

7) レスキュー

- 状況判断が的確になされたか
- 作業は迅速にされたか
- レスキューする上でのボートコントロールがされていたか

★指導技術：初心者講習における指導技量を評価

8) 模擬講習

- 初心者に対し分かりやすい講習をしているか
- 安全配慮がなされているか
- どのようなコミュニケーションがなされたか

●使用艇について

- カヤックは、ハードハル（リジッド）タイプの流水用クローズド・デッキ・カヤックを使用する
- カヌーは、ハードハル・タイプの流水用オープンデッキ・カヌーを使用する
- いずれも充満したフローテーションバッグを装着する
- スローロープ、トゥーライン持参が望ましい

## 2. 評価と認定

ペーパーテストは担当検定員が、それ以外は2名以上の検定員が、各課目毎に100点満点で採点し、それを元に「漕艇技術」「安全技術」「指導技術」の各評価が、5段階評価で全てA以上の時、該当種目の応用課程・9単位を認定する。



■応用課程（9単位）：シーカヤック

安全な指導をするに当たり、指導するフィールドに適した技術や知識を身につけ実践しているか、初心者指導においての最低限の指導技量や知識があるか、そして全てに渡りセーフティ・ジャッジメントがなされているかを評価する課程。

1. 課目と内容

課目		内容
安全技術	1) 海洋フィールド	海洋フィールドの基礎知識 ・海の特徴、気象事象 ・海上交通法規 ・海図、潮汐表、他情報収集
	2) ナビゲーション	コンパスワーク ・基礎知識と実習
	3) リスクコントロール	危険の認識と対処 ・潜んでいるリスクの確認：フィールド、ギア、技量（個人、チーム） ・リスク予知と判断
	4) ツーリング	ツーリングの計画と実習 ・情報収集とプランニング ・模擬ツアー ・ツアー結果の把握
	5) レスキュー	波のある海面で、漂流者及び自身の安全確保を図りながら、沈した状態の他艇を排水し、漂流者を再乗艇させる ・漂流者の足がつかない深さで、1回実施
漕艇技術	6-1) ボートコントロール ：サーフゾーン	50cm～1m程度の波が打ち寄せているサーフゾーンで実施 ・自身の上陸&出艇を複数の場所で数回実施 ・初級者の安全な上陸&出艇の誘導を実習
	6-2) ボートコントロール ：潮流	3ノット程度の潮流で実施 ・自身の潮流横断を複数の場所で数回実施 ・初級者の安全な潮流横断の誘導を実習
	7) ロール	波のある海面（もしくは同等と認められる状況）でのロール完沈状態からパドリングできる元の状態に復元する ・左右いずれか片方を1回実施 ・技法、フル、ハーフは問わない
指導技術	8) 模擬講習	受験者同士による模擬講習形式での実習 ・対象は初心者と仮定する ・陸上講習 ・静水講習

※6-1)サーフゾーン、6-2)潮流は、会場によりどちらかを選択実施

●判定の目安

★安全技術：実践するフィールドでの安全に関わる知識と技術、判断力を評価

1) 海洋フィールド：90分程度の講義受講後、30分程度のペーパーテスト実施

- ・必要な知識を身につけているか

2) ナビゲーション

- ・現在位置、進路を合理的に示しているか
- ・地図とコンパスを正しく使えているか

3) リスクコントロール：90分程度の講義受講後、30分程度のペーパーテスト実施

- ・必要な知識を身につけているか

4) ツーリング

- ・提出された計画書の考察
- ・無理のない、安全に配慮された計画が立てられているか
- ・現場での状況判断が的確になされたか
- ・現在位置を常に把握しているか

5) レスキュー

- ・状況判断が的確になされたか
- ・作業は迅速にされたか
- ・レスキューする上でのボートコントロールがされていたか

★漕艇技術：実践するフィールドでの艇操作技術の評価

6-1) ボートコントロール：サーフゾーン

- ・波を読んで安全かつ的確に上陸及び出艇が来ているか
- ・サーフィン状態で安定しているか
- ・波に対して安全に効率良く艇をコントロールしているか
- ・ビーチでの危険を理解し、的確に誘導できているか

6-2) ボートコントロール：潮流

- ・流れを読んで効率良く横断しているか
- ・スタンディングウエーブが利用できるか
- ・流れに対して安全に効率良く艇をコントロールしているか
- ・参加者の動きを理解し、安全に的確な誘導が来ているか

7) ロール

- ・完沈状態になったか
- ・効果的なヒップスナップが使われ、スムーズに素早く復元されているか
- ・身体（特に肩）に無理のないスキルを使っているか

★指導技術：初心者講習における指導技量を評価

8) 模擬講習

- ・初心者に対し分かりやすい講習をしているか
- ・安全配慮がなされているか
- ・どのようなコミュニケーションがなされたか

●使用艇について

- ・バウ、スターンともに、水密の隔壁が装備されたハードハル（リジッド）タイプのシーカヤックを使用し、デッキラインのついているものが望ましい
- ・ヘルメット、ビルジポンプ、パドルフロート、コンパス、トウライン持参が望ましい

2. 評価と認定

ペーパーテストは担当検定員が、それ以外は2名以上の検定員が、各課目毎に100点満点で採点し、それを元に「安全技術」「漕艇技術」「指導技術」の各評価が、5段階評価で全てA以上の時、応用課程・9単位を認定する。

■評価の主観的目安

★100点満点による点数評価

採点点数	主観的目安
90～	デモになって下さい。
80～	デモの道へトライしてみたいかがですか。
～80	要求している基準は明らかにクリアしています。
75 基準点	要求している基準は満たしているでしょう。今後も精進して下さい。
70～	もう少しですね。目的を絞って精度に磨きをかけて下さい。
60～	練習や経験をもっと積み重ねて下さい。
～60	基礎的な所を見直してじっくりと練習しましょう。

★5段階による総合的評価

評価値	主観的目安
AAA	素晴らしいです。
AA	とても良いです。
A	良いです。今後も精進して下さい。
B	もう少しですね。
C	更なる研修を積み重ねて下さい。